2026年11月13日

各　位

会　社　名　株式会社トリドリ
代表者名　代表取締役社長 CEO　中山　貴之
（コード：9337、東証グロース市場）
問合せ先　取締役 CFO　森田　一樹
（TEL. 03-6892-3591）

通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026年11月13日開催の取締役会において、最近の業績の動向等を踏まえ、2026年２月12日に公表いたしました2026年12月期（2026年１月１日～2026年12月31日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．2026年12月期 通期連結業績予想の修正（2026年１月１日～2026年12月31日）

	売上高	売上総利益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 7,200	百万円 6,700	百万円 1,000	百万円 950	百万円 450	円　銭 136.36
今回修正予想（B）	6,550	5,900	780	665	360	109.00
増減額（B－A）	△650	△800	△220	△285	△90	△27.36
増減率（%）	△9.0	△11.9	△22.0	△30.0	△20.0	△20.1
（ご参考）前期実績（2025年12月期）	5,372	4,895	707	701	437	133.04

２．修正の理由

（１）売上高及び売上総利益

当社グループは当期、中期経営計画の達成に向けて、成長領域への先行投資を計画的に実施してまいりました。

しかしながら、マーケティングパートナー領域において、プライベートブランド「toridori made」の立ち上がりが想定を下回ったことに加え、成果報酬型広告サービス「toridori ad」が競争環境の変化により苦戦したことから、売上高及び売上総利益は前回予想を下回る見込みとなりました。

一方、プロダクト領域においては、「toridori marketing」で2025年第４四半期より実施している代理店管理の適正化の影響が第３四半期で収束し、10月以降は顧客獲得が回復しております。また、「Vooster」は損失額を当初計画の範囲内にコントロールしつつ、導入事例が着実に積み上がってきており、同領域は成長軌道への回帰の兆しが見えておりますが、マーケティングパートナー領域の未達を補うには至りませんでした。

（2）営業利益

売上高が前回予想を下回るなかでも、当社グループは中長期的な利益成長を優先し、先行投資を継続してまいりました。その結果、営業利益は前回予想を下回る見込みとなりました。

一方で、販売費及び一般管理費は期中で抑制し、前回予想から 580 百万円減少する見込みです。第３四半期までに一定の先行投資は実施できたと判断し、第４四半期以降は、マーケティングパートナー領域を中心にコストコントロールを進めてまいります。

（3）経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益

経常利益は、営業利益の減少に加え、連結子会社の完全子会社化等のグループ再編に伴う専門家費用を営業外費用に計上することから、前回予想を下回る見込みとなりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の減少に伴い、前回予想を下回る見込みとなりました。

（4）今後の見通し

修正後の予想においても、売上高は前期比 21.9%増、営業利益は前期比 10.2%増と、増収・営業増益を確保する見込みです。各領域の状況と今後の方針につきましては、本日公表の「2026 年 12 月期 第３四半期決算説明資料」をご参照ください。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以　上